

2018年度 学校自己評価(付属自由ヶ丘幼稚園)

学校法人東海大学初等中等教育課

A～Eは教員評価(Aよい Bおむねよい Cどちらともいえない Dやや不十分 E不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
園運営 (分掌)	学校評価(自己評価・保護者アンケート)をふまえ、学校運営上の課題について、改善する。	保護者アンケートでは各項目とも7～8割程度の好評価を得ている。反面2～3割程度の方には、特色ある教育や危機管理・安全対策面での満足感が得られていない。情報発信や清掃・管理面では概ね良好の評価であるが、今後、外部に対する園教育方針や内容について、さらに在園保護者にも具体的にわかりやすい発信が課題といえる。	B	2～3割程度の方に特色ある教育や危機管理・安全対策面での満足感が得られていないのは、1・2・年少学年が多く、園内の教育面の魅力や安全への漠然とした不安があることが想像される。他園との特徴の違いや卒業までに身に付く成長力をなるべく年中・年長学年の具体例を紹介しながら情報を発信していく。そのために縦割り保育や情報発信方法の見直しを図る。
(教育課程・保育指導) 保育指導	主体的に興味関心のある遊び・及び課題に意欲的に取り組み、生きる力を身につけられる保育を展開する	保護者アンケートでは各項目とも8～9割以上が好評価を得ている。すべての学年において同様であり概ね望ましい結果となった。保護者として心配な子ども同士の間関係の構築については一朝一夕に答えを求めるのではなく、総合的・多面的な視点での観察や対応が必要であり課題である。	A	園全体の保育指導においては概ね好評の評価・理解を得ているが、個別の対応・相談・指導においては未だ満足の域には達していないと思われる。今後は個別対応・相談・指導面における具体的に効果的なプランと姿勢の構築に努める。例えば担任以外への複数への相談など保護者が相談しやすい環境を整えることも考える。
クラス指導	教育目標を取り込んで、学級運営と学年運営の充実を図り、特色あるクラス指導をする。	保護者アンケートでは各項目とも7～8割程度が好評価を得ているが、個別の内容では保護者として心配な子ども同士の間関係の構築について常に不安と適切な対応が期待されている。担任一人だけでなく学年や管理職を巻き込んだ複数での対応等についての体制強化が課題である。	A	担任一人だけでなく学年や管理職を巻き込んだ複数での対応等についての体制を強化するには、若い教員が誰にでも相談しやすい環境を整えることと、ベテランも自分の指導に慢心せず常に自己点検を行う。併せて相互の情報交換をこれまで以上に細かく行い、横にも縦にも情報が通るように各種委員会活動等を密にする。
生活指導	自立できる子どもをめざして、それぞれの子どもの成長に寄り添って、発達段階を見据えた指導をする。	保護者アンケートでは各項目とも7～8割程度が好評価を得ているが、個別の内容を見ると、服装・身だしなみ・礼儀・挨拶等において未だ十分な満足ではなく更なる期待も感じられる。	B	学年が上がるにつれ、生活習慣面に関する事項は全項目において向上し身に付いてきていると感じる保護者が大半である。身の回りの整理整頓や備品・物品を大切に扱う点においては未だ2割程度の不十分さが残る。繰り返し根気よく行動を認めながら全体個別の両面から教員全体で声を掛け適宜指導に当たる。
進路指導	進路について、情報を提供し、さまざまな相談に応じ、適切な指導をする。	小学校への連携については以前から課題があり市役所が仲介してさまざまな取り組みを行い相互理解に努めている。保育現場見学や意見交換会、進学後の様子を見る「学校の日」などがある。それでも不十分だが、個人情報問題もあり取り扱いに慎重になりながらよりよい連携を模索中。	B	園独自でできることは限られており、市や小学校と連携しながら対応している。年長の学年を中心に3学期に入る前から少しずつ小学校をイメージした心構えや文字・数字への関心を高める指導、集団生活に向かうシュミレーションを意識して取り組んでおり、未だ不十分な点を確認しながら具体的な指導プランを構築する。
特別活動	園行事や保育活動等を通して、豊かな情操を培い、異なる学年との交流が図られるよう指導する。	特別活動においては保育外活動・園行事・保護者会行事・子どもたちへの役割を持たせる活動においては、内容毎によく取り組んでいるが、教員アンケートに見られる保育外活動・役割の遂行において不十分と感じているのが2割に上った。	B	教員アンケートに見られる保育外活動・役割の遂行において不十分と感じているのが2割。具体的な検証を行い対策を検討。保育外活動は外部委託講師との連絡連携を密にすること。保護者会活動への参加協力については十分だがさらにベスト連携を相互に研究。子どもの役割分担はクラス単位と個別の両方を検討する。
研修	保育改善、研修、自己課題等に積極的に取り組み、先取的保育が構築できるように研鑽する	教員の積極的参加については大半であるが、自らの研究テーマを設定して、その実践を行う点については3割が不十分と感じている。また学年課題や重点目標の実践・研鑽については85%が良好と答えている。	B	教員個別の研究テーマ設定については知的財産教育分野と各保育テーマが考えられるが、日常の保育活動とのリンクを通して、そこに含まれる研究分野をうまく整理すればよい。全然できていないわけではなく、目的・目標・具体案・実践・総括・反省等を整理して自ら確認することから始めればよい。